

## 資産運用レポート：自己分析（2022年版）

1 はじめに

表1は2003年4月末における私のポートフォリオです。この年の5月、小泉総理の「りそな銀行国有化」宣言を号砲とした強気相場が始まりました。

ダヴィンチ・アドバイザーズ、ラウンドワン、エン・ジャパンなど、値を飛ばした持株が続出して、その流れに乗ることができました。

もっとも、よくよくポートフォリオを見渡してみると、我ながら疑問を感じます。「なぜ、この株が入っているのか」という銘柄も混ざっているからです。

得意分野の割安成長株に特化すればいいものを、それ以外を多分に含んだ、ごちゃごちゃしたポートフォリオとなっています。

皆さんの中に、昔から私のことをご存知の方がいらっしゃれば「なぜ、任天堂やイトーヨーカ堂を買っているのか」と思われるかもしれません。まさのそのとおりです。

自分なりに、まあまあ満足できた小泉相場の成果でした。しかし、やり方次第で、もっと稼げたかもしれないのです。

今までの資産運用レポートでは、売買に重きをおいた振り返りを行ってきました。今回はポートフォリオの組み方にスポットを当てた自己分析を行います。

★表1：2003年4月末のポートフォリオ

	コード	社名	株数	買付単価	買付金額	株価	評価額	損益額	損益率
1	2726	パル	110	2,164	238,000	1,880	206,800	-31,200	-13.1%
2	2815	アリアケ・ジャパン	253	3,474	877,800	3,230	816,176	-61,624	-7.0%
3	4314	ダヴィンチ・アドバイ	2	107,500	215,000	134,000	268,000	53,000	24.7%
4	4659	エイジス	400	1,493	597,000	1,290	516,000	-81,000	-13.6%
5	4680	ラウンドワン	3	171,000	513,000	224,000	672,000	159,000	31.0%
6	4849	エン・ジャパン	1	661,000	661,000	700,000	700,000	39,000	5.9%
7	6861	キーエンス	28	18,485	520,000	19,170	539,259	19,259	3.7%
8	7479	サンマルク	36	3,294	120,000	3,100	112,932	-7,068	-5.9%
9	7532	ドン・キホーテ	50	11,132	556,600	10,830	541,500	-15,100	-2.7%
10	7649	スギ薬局	120	4,331	519,700	5,490	658,800	139,100	26.8%
11	7974	任天堂	10	12,372	120,000	9,320	90,400	-29,600	-24.7%
12	8264	イトーヨーカ堂	100	3,480	348,000	2,805	280,500	-67,500	-19.4%
13	8595	ジャフコ	130	6,071	789,200	4,310	560,300	-228,900	-29.0%
14	8597	SFCG	87	12,973	1,123,430	8,300	718,780	-404,650	-36.0%
15	9843	ニトリ	300	4,573	1,372,000	5,190	1,557,000	185,000	13.5%
16	9945	プレナス	496	3,459	1,716,600	3,170	1,573,277	-143,323	-8.3%
17	9974	ベルク	300	1,890	567,000	1,700	510,000	-57,000	-10.1%
18	9997	ベルーナ	100	4,010	401,000	4,360	436,000	35,000	8.7%
		合計			11,255,330		10,757,724	-497,606	-4.4%